

質問：モーツァルトの協奏曲第21番についてお話しいただけますか？

モーツァルトの第21番は、人生を謳歌する生の喜び、花火の様な音楽です。明るく燦々と輝く太陽の様な心があたたまる音楽です。時には激しいリズムもあり、エネルギーに満ちた喜ばしい感覚に包まれます。皆様にもそのように感じていただけたらと思います。

質問：音楽との出会いを教えてください。

クラシック音楽はとても自然に私の中に入ってきました。生まれた時から、と言っても過言ではありません。私が生まれたのは、ブラゴヴェシenskという小さな町。都会とは違い、のどかなこの町では、小さい子供も一人で外遊びしています。4, 5歳の頃から。私も例外にもれず、4歳ごろから一人で外に出て…私が向かうのはいつも、家の近くにあるレコードショップでした。そこに入ると、まっすぐクラシックコーナーに行き、母が迎えに来るまで、離れようとしなかったんです。そこではいつもクラシック音楽が流れていて、私は飽きずにとずっとそれを聴いていました。まるで磁石のように、吸い付かれるように、レコードショップへ足しげく通いました。幼稚園に通い始めると、音楽室が、わたしの居場所でした。そこにあったピアノを触るのが大好きで、時間があれば音楽室に行きました。5歳になったころ、母にピアノを弾きたいと言い、音楽学校に入学、そこは通常6歳児から入学できるのですが、私は5歳で入学を許されました。10か月ほどそこで学んだ頃、町のロシア民族楽器オーケストラと共演したのが初ステージです。ベルコヴィチという作曲家の曲の、ピアノソロパートを弾きました。その演奏会には地方の文化担当者や、市長が来ていました。そのころはモスクワへ移って本格的にピアノを学ぶことが決まっていたのですが、市長が私に、モスクワになんて行かないで、町に残ったほうがいい、モスクワには君の様なピアノの上手な子は五万といるけど、この街にいる限り君は目立った存在でい続けるんだよ！と説得？されたのを覚えています（笑）

モスクワでは最初はリシチェンコ先生にその後はヴォスクレセンスキー先生に師事しました。7歳の時、モスクワ音楽院大ホールでヘンデルの協奏曲をオーケストラと共演しました。今はハノーバーで、アリエ・ヴァルディ先生のもとで学んでいます。

(次の質問に移って、今後取り組んでいきたいこと)

先生のもとで、これからもっとレパートリーを広げていきたいと思っています。シ

ューマン、ベートーヴェン、モーツァルト…。ロシアの作品ですか？もちろんそれもです。ストラヴィンスキーの作品とか。ヴァルディ先生はロシア音楽にも長けているので、学び取ることが多いです。

質問：ピアノの魅力は、あなたにとって、何でしょう？

—これまでにいろいろな楽器にふれてきましたが、豊かで、みずみずしい音色、多彩な音色に関しては、ピアノが一番可能性が広いと思います。モスクワで学び始めたころも、ピアノを弾きながら、その豊かな音色に、いつも感動してました。オーケストラのすべての楽器に代われる、どんな楽器も演奏できるオールマイティ、無限の可能性を秘めた楽器がピアノです。もちろん人の声だって表現できますよ。人間のように歌うことができますから。どのような音色も引き出せます。弾き手の心を伝えることができるのです。

質問：休日の過ごし方は？ 気分転換にすることは？

—そもそもピアノがそばにないと、落ち着かない…（笑）。そうですね、オペラも好きですし、歌手（声楽）の美しい声を聴くのも好きだし…

でも、一番の元気のもとは、やはりピアノです。気分転換にまったく新しい作品を弾いてみることもします。

質問：気分転換もピアノ？

—別に弾かなくても、ただ楽譜に目を通すだけでも、フレッシュな気持ちになって、新しい力が湧いてきます。ハノーバーではオペラにも良く行きます。

質問：読書家でしたよね？

—はい。ハイク（俳句）もタンカ（短歌）も大好きですよ。そうそう、日本で見た歌舞伎がとても面白かった！ 衣装も、役者の動きも、見るものすべてにくぎ付けになりました。イヤホンで訳を聞きながら観劇しましたが、とても気に入りました。即興している部分が多いと感じていたのですが、後で知ったところでは、すべての動きがきっちりと決まっているのですね。伝統の歴史の継承で、これまで代々培われてきたことを繰り返しているのですが、即興らしく見えることも、印象が強かった。あるベテラン役者が女性を演じる、ワザとらしく女性っぽい動きをするのですが、なんとも巧みで、おもしろかった。またぜひ、歌舞伎を見に行きたいです。

それから、京都も大変気に入っています。最初に訪れた時から大好きな場所になりました。実は最近、「平家物語」（日本語で発音）を読破したところ。「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の…」（これも日本語で！！）ですよ。

平等院にも行きました。鴨長明は、とても好きな日本文学、ゆかりの場所を訪れてみたいです。

質問：この後の予定は？

—サンフランシスコから、ドイツに帰って、ニューヨークへ行きリサイタル、モスクワでもリサイタルが入っています。それから11月には日本です！

質問：日本にはあなたのファンがたくさんいます。メッセージを。

—また日本の皆さんと会えるのはとてもうれしいです。今から楽しみにしています。みなさんの温かい気持ちは、私にとっては大きな励み。日本のファンのみなさんは私にとって大きな誇りです。演奏会の後に手紙をいただくことがあります、また皆さんと交流する機会も。その熱い応援は私に自信をつけ、前進する大きな力になります。大切なファンのみなさんの前で演奏するときは、自分の心を開いて演奏しています。そんな私のピアノが、聴衆の皆さんの心に届けば、それは何よりの喜びです。そんな心の交流の時を、楽しみにしています。